

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

果樹カメムシ類の果樹園への飛来開始時期（技術情報第6号）について（送付）
このことについて、下記の通り取りまとめましたので、防除指導に御活用ください。

記

果樹カメムシ類がヒノキ球果から離脱し果樹園に飛来する時期は、天草市有明町が7月下旬、合志市・熊本市河内町・宇城市松橋町及び宇城市三角町が9月上旬、天草市本渡町が9月中旬と予想されます。なお、地域によっては予想日より早く離脱し、果樹園へ飛来する可能性があるため、早期発見と初期防除を徹底しましょう。

1 飛来開始時期

(1) 7月21日におけるヒノキ球果の果樹カメムシ類の口針鞘数は、一部地域で平年に比べて多かったが、県内6地点の平均は1果あたり3.8本（平年3.9本）で平年並であった（表1）。

※ヒノキ球果の1果当たりの口針鞘数が25本に達する時期が、新世代成虫がヒノキから離脱し、果樹園に飛来する時期の目安となる。

(2) 各地点のヒノキからの離脱予測日から、果樹園への飛来開始時期は天草市有明町で7月下旬、合志市・熊本市河内町・宇城市松橋町及び三角町で9月上旬、天草市本渡町で9月中旬と予想される。

2 防除対策

果樹カメムシ類は、主に山林のヒノキ・スギ球果を餌として増殖する。本年の誘殺数は平年より少ないが、餌となるヒノキの球果着生量は平年よりやや多いため、今後、果樹カメムシ類の発生量が多くなる可能性もあるので、以下の点に注意する。

(1) 果樹カメムシ類は、球果の状態が悪くなると球果から離脱し果樹園に飛来するので、予測飛来開始時期（表1）を参考に早期発見に努める。なお、飛来時期や量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在するため、園内全体を観察する。また、山間部や山沿いの園では、発生が多くなる場合もあるので、注意する。

(2) 果樹カメムシ類は日没直後に園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。

(3) 薬剤の使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。

(4) 今後の発生状況や予測離脱日については、病害虫防除所のホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>）を参照する。

表1 7月下旬におけるヒノキ球果の1果当たり口針鞘数および新世代成虫の飛来予測時期

地点	1果当たり口針鞘数(本) X	離脱までの日数 Y	調査日	予測式で算出されたヒノキからの離脱予想日	新世代成虫の予測飛来開始時期
合志市 栄	1.7	48	7月21日	9月6日	9月上旬
熊本市河内町	0.7	51	7月21日	9月10日	9月上旬
宇城市松橋町	2.7	44	7月21日	9月3日	9月上旬
宇城市三角町	1.5	48	7月21日	9月7日	9月上旬
天草市有明町	16.0	0	7月21日	7月21日	7月下旬
天草市本渡町	0.1	54	7月21日	9月12日	9月中旬
平均	3.8	-	-	-	-
平年	3.9	-	-	-	-

- ※1 1地点30球果を調査。
- ※2 予測離脱日は、福岡県農業総合試験場が開発した予測式により算出した。
 予測式： $Y = 54.17 - 3.776X + 0.01937X^2$
 (Y：調査日から離脱日までの日数、X：7月下旬のヒノキ球果1果当たり口針鞘数)
- ※3 Xは小数点第二位を四捨五入、Yは小数点以下切り捨て
- ※4 予測式による計算値がマイナスになった場合は離脱日までの日数を0とした。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 予察指導室(病虫害防除所)
 担当：岡島、中村 TEL：096-248-6490

参考

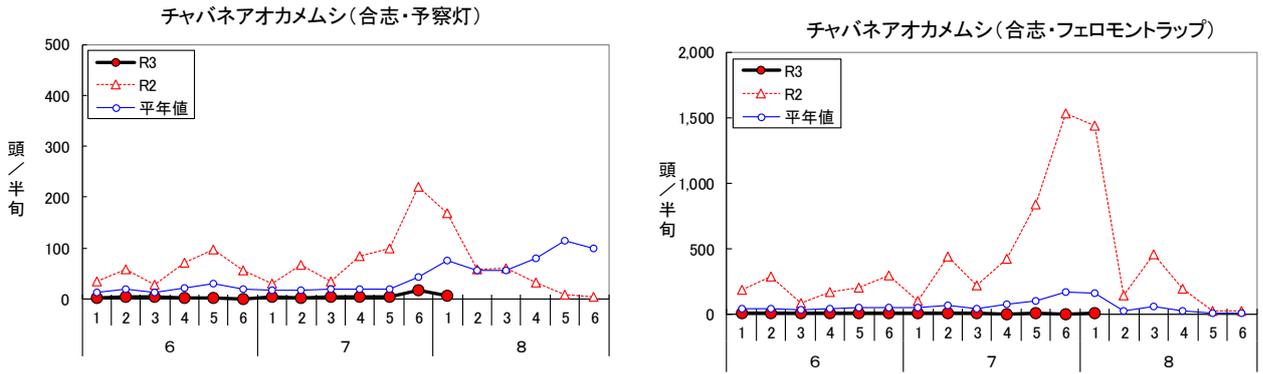


図1 合志市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (設置場所: 農業研究センター)

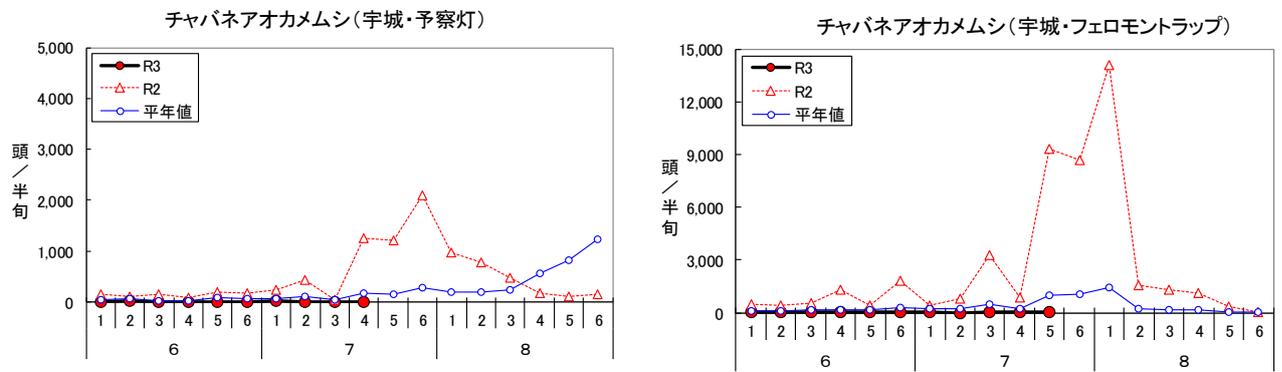


図2 宇城市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (設置場所: 果樹研究所)

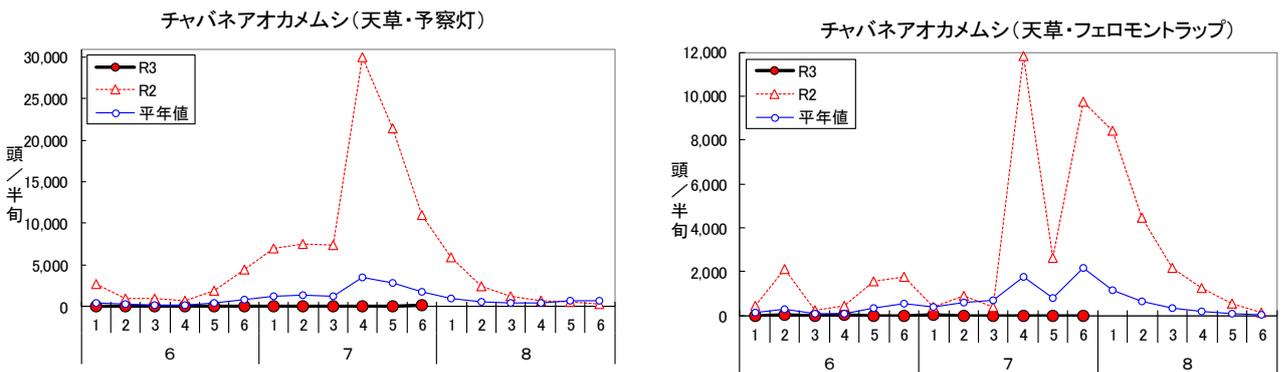


図3 天草市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (設置場所: 天草農業研究所)